11/19

学生戦線
11/19
社会主義学生同盟大阪市大支部発行

佐藤内閣打倒！代々木粉砕！学園闘争勝利！

東大本郷イチョウ並木集会に総決起せよ！

共催：東大全共斗 日大全共斗

反日共全党派 三万人

全市大の学友諸君。我々は東大に総決集しなければならない。そこで2つの敵を粉砕するのだ。1つは、海外侵略への道＝70年安保への国内再編を押し進めている佐藤ブルジョア政治委員会の大学の帝国主義的再編策動であり。1つは、常に学園斗争を経済主義的に、物取主義的に圧殺せんとしてきた、日共ー民青反革命集団である。学友諸君、他大学に於るノンポリは革命的な左翼である。市大における君は反代々木＝左翼なのか、代々木＝右翼なのかの結着が問われている。諸君が左翼なら、東大で斗え！。

①現在の学園斗争が意味するもの

現在激発する学園斗争が意味するものは何なのか？その解決の方向は如何にあるべきなのか？65年度大授業料斗争を皮切りに、早大→明大→中大と打ち続き、医科系から、東大、日大斗争へと達した学園斗争は、現時点の東大、日大の斗いが象徴するように、国家権力との不可避的対決でしか解決がつかない事が明確となった。日大斗争は、最初、二〇億円の脱税に端を発したが、それは端初においては、学園民主化斗争であった。それが時を経るにしたがって、学生は去るどころか、増々急進化し、機動隊導入を武力で粉砕し、二万の武装デモを組織するに至った。そのスローガンは「古田倒せ！佐藤倒せ！」である。古田会頭を団交にひきずり出し、人民裁判にかけた直後、佐藤首相は声明を出した。「団交は認められない。」そこには古田の後ろに、佐藤がおり、その後ろに70年安保があった。東大斗争も同様である。最初、医学部の登録医制度粉砕斗争であり、処分斗争であった。それが安田講堂占拠、それへの機動隊導入、再占拠→各学部無期限ストへと発展した。そのスローガンは「大河内打倒！安保粉砕！」である。そして、中央教育審議会の声明がなされた。国大協路線ー大学官僚統制ーの拠点から、今や東大は帝国主義教育の拠点へとなされんとしている。

このように日大、東大斗争に見られるように、現在に於て、個別学園斗争ですら、日帝の総路線ー70年安保の国内再編との全面的対決がよぎなくされており、我々は学園斗争の拠点を、70年安保粉砕の拠点へと転化させなければならないのだ。そして、それは敵に包囲されている。10、21斗争では東大から四千、日大から四千の学友が街頭で斗い抜いたのである。

②日共ー民青反革命集団を粉砕せよ

この様な斗いの中で民青の行動は我々の斗いを潰し、敵に身売りを強要する、反革命である。それは安保粉砕斗争に於て、安保破キ通告と称して、大衆に、議会主義に幻想を持たせ、再び60年の徒労をくり返させている様に、学園斗争に於ても、民主化斗争なり、授業料斗争、寮、学館斗争を、不可避な政治との対決を切断し、やれ文部省に、やれ教官に、やれ国会にと、「善光寺参り」を強制するのである。そして我々の斗いが強固になればなる程、恐怖し、我々に武力で対決をいどむようになってきた。それは、中大斗争における武力破壊策動であり、法大での大学官僚とユ着した中核の武力での押し出しである。そして、東大での斗いを、彼らは全国より結集した武装部隊で破壊しようとしているのである。

昨年10、8羽田斗争以降、各自治会選挙で敗北に敗北を重ね、現在、学生数では圧倒的に反日共系に差をつけられた。彼らが、武力によってしか、我々を粉砕する手がないのは明確である。

我々は、東大、日大斗争を勝利し、70年安保粉砕→日帝打倒への展望を切り拓くために、日共ー民青のゲバルトを、我々のゲバルトで粉砕するであろうし、この斗いが、今後の斗いへの結節点となる事は確かである。

③反日共系統一戦線について

イチョウ並木集会は、東大、日大全学共斗会議共催の下、反日共系全学連各派ー反帝全学連（社学同、解放派、ML、四トロ）、中核全学連、革マル全学連、フロント、民学同ーが総結集しておこなわれる。我々は過去一貫して、大全学連構想を主張して、全学共斗会議の形態にそれを実現してきた。今年の10、21斗争では、街頭斗争に於て、それを実現した。我々は、共同の敵に対しては、共同斗争を組んでいるのであり、党派間の理論的斗争は堅持し深化しなければならない。これはすぐれて、ソビエトを形成する第一歩となるものであり、共同斗争が保障されない限り、真の前衛党の形成はなしえないのである。ロシア革命を想起せよ！